

## 平尾台自然の郷指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月18日(木) 9:30~12:45
- 2 場 所 北九州市役所12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 薛(せつ)構成員、横山構成員、福地構成員、  
城水構成員、横田構成員  
(事務局) 建設局公園緑地部長、公園管理課長、  
公園管理課企画係長、公園管理課担当職員

### 4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。
- 募集要項等について事務局より説明。
- 各企画提案書について事務局より説明。
- 応募団体より提案概要に関してヒアリング
  - (構成員) 利用者からの要望、苦情は、具体的にはどんなものか。それに対して、草そり場の新設以外で、今回の提案で反映させたところを教えてください。
  - (応募団体) アンケートでたくさんの意見等々があった。例えば、「遊び場の近くにトイレがない」という意見に対し、高原音楽堂の横にあるトイレを改装して、利用者が利用しやすいよう改善している。また、草そり場への要望も多く、「(現在の草そり場が) 駐車場から遠い」という要望に対し、今回「草そり場新設」の提案を入れている。
  - (構成員) 説明の最初に「ソフトの充実」とあったが、新たに来場者を増やすとなると、若い層はとても重要との印象がある。特に、おしゃれキャンプ、キャンプ女子など、最近、インスタグラムなどでも流行っており、新しい市場の開拓まで行かなくても、注目されると思う。ソフトの充実において、若い、特に女性層も含めた人たちに対する新たな取り組み、発信の仕方などを考えているのか。
  - (応募団体) 発信の仕方では、今、インスタグラム、フェイスブック、ツイッター

一等を使った投げかけをやっている。新規の若い男女の取り込みでは、今、臨時駐車場を有料で貸し出し、例えば、カーイベントを誘致したり、今、登山がちょっと流行っているので、若い女性向けに、山登りのイベント等を開催したりしている。

(構成員) 今後の新しい取り組みについて、分かりやすい説明でよかったと思う。それを聞きつつ、2つほど聞きたい。

まず、組織について、役員に行政の方がいるのか。代表取締役は常駐しているのか。常駐してないとすれば、現場のトップは部長になるのか。それに関連して、地元との連携が非常にできている地域だと思うが、地元の方の雇用は全体の何パーセントか。

最後に、提案書に行政との色々な連携について挙げているが、特区に関するところで、民泊とワイン、一番やりやすい地域と思う。それについて、長期的な展望などあれば教えて欲しい。

(応募団体) 社長は常駐している。我々と一緒に週5日は勤務している。そのため、何があっても社長にすぐ相談し、社長の指示の下、動ける体制である。

雇用は、開設当時は地元の人結構いたが、高齢化等に伴い辞めている人も多い。今、社員、パートを含めると、2割程度かと思う。

(構成員) 特区については。

(応募団体) ワインは、ブドウ畑を貸し出している。随時、報告を受けており、今はぶどうのワインだけだが、将来的には、園内で作っているブルーベリーを利用したワイン等も出来ればと考えている。

(構成員) 販売しているのか。

(応募団体) まだ、販売するところまで行っていない。特区に指定されていないため、今期に資格を取って、自家消費から始めたい。

(構成員) 設備増強との説明があったが、これは、市に整備してもらうのか、それとも、自己資金でやっていくのか。

(応募団体) 追加投資については、弊社の準備金から行っている。剰余金を切り崩している。

(構成員) 基本的に自己資金なのか。

(応募団体) そうだ。

(構成員) 平尾台の全体のエリアでの集客プログラムを企画、実施するとあるが、周りの方々の取り組みとの連携、民泊などもあると思うが、どういったことを考えているのか。

(応募団体) 実際やっていることのプラスアルファになるが、現在、指定管理を受けている平尾台自然観察センターと共同で、天体観測や山々をめ

ぐるハイキングイベント等の拡大などを考えている。小さいお子さんから、若いお父さんお母さん、年配の方までが一緒に歩けるイベントをやっていききたい。

(構成員) 集客に関して2つ聞きたい。  
インバウンドについて、今、日本に来る外国の方で、日本の公園に行きたい方が多くいる。北九州では平尾台が人気と聞いたが、実情と今後の対応を詳しく聞きたい。  
もう一つは、出張教室、アウトリーチについて、すごくいいことだと思うが、今後の具体的な計画があれば教えて欲しい。特に、高齢者対応で入場料、使用料を減免する事よりも、行きたくても行けない方が高齢者には多いと思うので、「お金は出しても良いよ！」という方々に対して、何か考えていることがあれば教えて欲しい。

(応募団体) インバウンドだが、数年前までは旅行社が連れてくる韓国や中国の団体利用が非常に多かった。それが今は少し形態が変わり、インフルエンサーと言うのか、これからの旅行情報を左右するような方が平尾台に来て、キャンプをしたり体験行事に加わったりしている。他には、他の地区ではあまりないと思うが、ハングルナンバーのバイクが来たりする。理由を調べると、韓国では高速道路をバイクが走れない。日本に来れば、韓国ナンバーのまま走れるため、平尾台をまず出発点に、九州一円を高速道路に乗って周る。フェリーで来た最初に来るのが平尾台。それは、キャンプでも、バイクツアーでも、今まで日本人がやってきた平尾台の利用そのもの。韓国や中国の方の旅行に対するニーズも変わってきている。その方向は、これまで平尾台がやってきた方向と一致しており、それを見せて集客を図りたい。

(構成員) アウトリーチ、高齢者については。

(応募団体) 先程も説明したとおり、先日リバーウォークで、そばの出張体験を開催した。過去には、万華鏡の体験や皿倉山と連携したきのご観察会等々も実施している。それが浸透していけばと思っている。

(応募団体) これまでは「平尾台に来て欲しい」とのニーズに対して、訪問してイベントを行い「興味を持って平尾台に来てもらえれば」と思っていたが、最近では、「平尾台を持ってきて欲しい」というニーズが変わってきた。  
これまでは、平尾台の休園時は安く、人件費を入れないで展開していたが、ニーズが変わってきたので、もう少し費用をもらわないと難しくなっている。そばの出張体験をしてくれるのは、平尾台のそばを育てる会というボランティアで、コストを抑えてしてくれる。取り組みを今後も続けて行きたいが、料金の仕組みは少し変えたいと思っている。

(構成員) 5年前か10年前に、お酒を洞窟の中で寝かせて販売し、ファンを増やす取り組みがあったかと思うが、その後どうなったか。

(応募団体) 平成15年、16年で一回目の仕込みを行い、順調に消費されている。今、10年酒として販売している。古いのは12年、13年目になる。また、麦焼酎だけだったが、昨年、芋も新たに仕込みをしている。芋と麦を仕込んでおり、2020年に3年間の熟成が終わる。また、新しい焼酎、以前より安い価格で販売する予定としている。

(構成員) どこで販売しているのか。

(応募団体) ショップと無法松酒造、井筒屋で販売している。あと、ふるさと納税の返礼品にも使用している。

(構成員) 若い人たちを取り込む、海外の方へのアピールは、今SNSの拡散がとても影響力があると思っている。見せ方の問題があると若干思っていて、見せ方のおしゃれさをもう少し考慮すると、もっと食いつきが良くなると思う。もったいない気がする。今後、その辺を検討して欲しい。SNSの拡散をもう少し意識して、ハッシュタグの使い方を検討して欲しい。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

(構成員) 非常に厳しい自然環境にいることをしっかり認識しており、それに対する具体的な提案もきちんとあった。安全対策では市とも連携おり、大丈夫かなど。

(構成員) 自然環境の位置的な特性を踏まえた上で、それに対応することを積極的に考えている。

(構成員) 有効性では、今後の取り組みに期待というところはある。

(構成員) 課題の解決、現状と過去に対して、問題意識を持った上で考えている印象があった。

(構成員) HPの閲覧数やSNSの発信回数に目標を立てる気はなさそうに感じた。しかし、皆さんの話で少し触発されて考えるかもしれない。

(構成員) この事業そのものが会社の生命線だから、それなりに長期的な計画を立てないといけないことは十分分かっている。それが良く出ている。やらないと生き残れない。

(構成員) チェックしてみると、インスタグラム、HPの更新をきちんとしているが、見せ方がまずい。

(構成員) もうちょっとおしゃれさを出すと、引っ掛かりが増える。

(構成員) この施設が指定管理者対象施設として適切なのかという疑問は残る。厳しい立地条件も含めた特殊な地域にある施設、専門性が必要となる点も含めて、他の団体で替えが効くのかという疑問が残った。

(構成員) 指定管理という制度の中でやろうとしている訳で、しっかりとした1団体が出てくればそれで良い。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて、各自得点を記入。

○ 審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 非常に特殊な(自然)環境であることを熟知している。開園以後、継続して管理運営している。

(構成員) 十分に理解し、問題意識を持って理念や基本方針を定めている。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「管理運営の理念」「実績・経験」の項目が4、「人的・財政基盤」の項目が3が妥当と考える。

○ 審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 新たな自主事業の提案があり、暑さ対策にも言及している点は評価できる。

(構成員) これまでの実績を踏まえて課題化し、取り組んでいる。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「設置目的の達成」「利用者満足向上」の項目が4が妥当と考える。

○ 審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理料及び収入」「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3が妥当と考える。

○ 審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 立地的特性を踏まえて、しっかりと計画している。積極的対策が良

い。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「管理運営体制」「平等利用等」の項目が3  
が妥当と考える。

- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

(構成員) ハートランド平尾台株式会社は、平尾台自然の郷を開園以来継続して管理運営をしていることから、維持管理においても十分な経験があり、指定管理者として市の要求水準以上の適性を有している。また、当該施設の非常に特殊な自然環境を熟知した職員を擁しており、専門知識や意欲を十分持っている。

(構成員) 自然を楽しむことと、保護することは相反することもあるが、バランスを保ちつつ、北九州市が誇る平尾台を海外にもPRして欲しい。

(全構成員) しっかりとした提案をいただいたということで、合計点70点、地元団体優遇措置（市内）加算の5点を加え、75点としたい。

- 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。